mipox

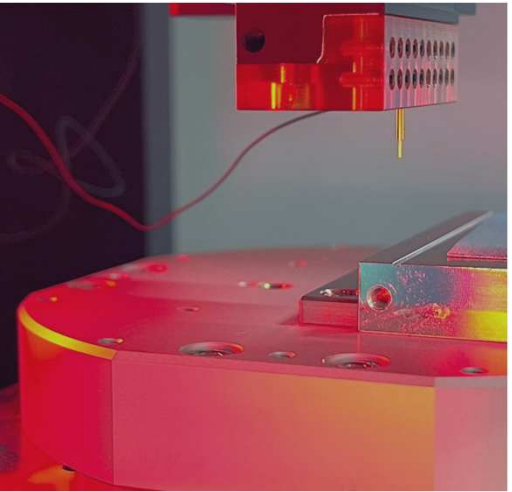
2024年3月期
第2四半期決算説明資料

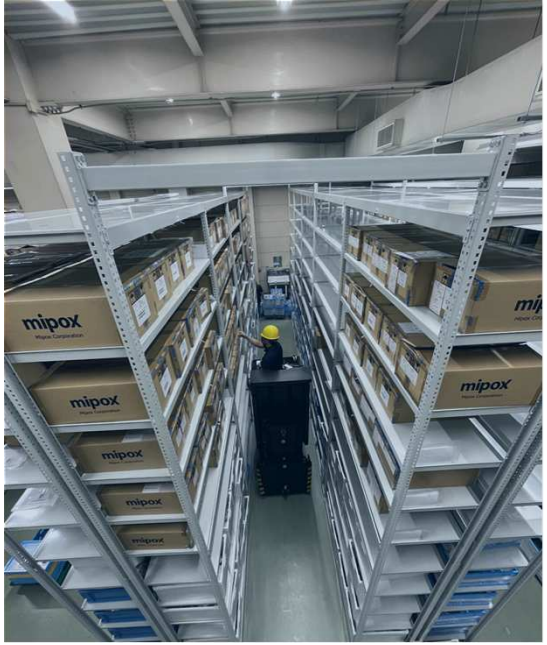
Mipox株式会社（マイポックス） 証券コード 5381

2023年11月16日

mipox 塗る・切る・磨くで世界を変える

Agenda



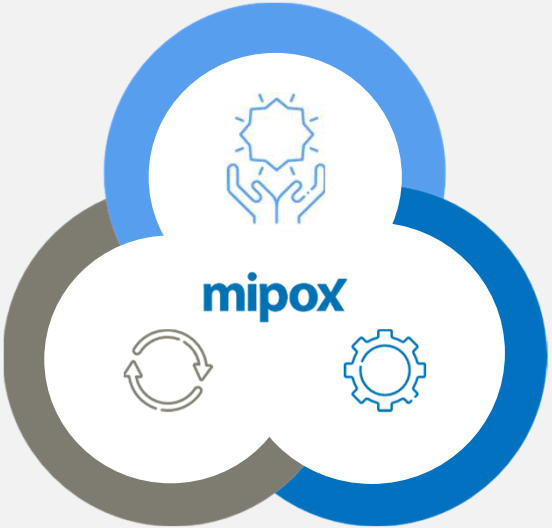


01 会社概要
02 2024年3月期第2四半期 実績
03 通期業績見通し
04 事業内容
05 競争力の源泉
06 成長戦略
07 Appendix

会社名	Mipox（マイポックス）株式会社
英文名	Mipox Corporation
創業	大正14年（1925）年11月21日
設立	昭和16年（1941）年12月12日
代表取締役社長	渡邉　淳（Jun Watanabe）
本店・本社	〒322-0014 栃木県鹿沼市さつき町18
株式市場名	東京証券取引所 スタンダード
証券コード	5381

経営方針

エンジニアリングアプローチによる製品事業の付加価値向上



受託事業から
エンジニアリングサービス事業への転換

早い変化と多様性に対応できる
経営基盤の整備

mipox

「塗る、切る、磨く」を極めた技術力

創業から続く箔の製造技術を応用することで「塗る」「切る」「磨く」技術をコアにした事業を展開した企業です。

コア技術を組み合わせ、お客様の成功のための付加価値を創造するための製品とサービスを提供します。

塗る
Coating

PETフィルム、銅箔、織布、紙等の基材に、調合した樹脂等の塗料を均一に塗布。

自社製品である研磨材や反射材だけでなく、保有する複数の塗工機によってご要望に合わせた機能性フィルムの製造も実現。

切る
Slitting

「塗る」ことで出来た製品を希望のサイズに裁断(スリット)。

高精密さが求められるハードディスク向け研磨フィルムの製造で培った技術によって、裁断が困難といわれている素材でも精度の高い切り口と巻き上げを実現し、高品質の製品を提供。

磨く
Polishing

徹底的な顧客視点を持った製品開発のために自社の研磨材と独自の研磨装置で研磨プロセスの研究を積み重ねる。

ハイテク分野で培った高精度研磨加工技術で次世代半導体ウェーハの研磨にも挑戦し、研磨市場に於けるプロフェッショナルを目指します。

01 沿革

mipox

	拠点開設	事業領域	売上高（百万円）	トピックス
1925	東京都京橋区にて設立	製品事業		顔料と色箔の輸入業者としてドイツ資本により設立（独逸顔料合名会社）
1981				日本ミクロコーティング㈱へ商号変更
2001		受託事業	6,858	JASDAQ店頭市場に上場
2002			4,439	
2003			4,949	
2004			7,197	
2005			10,799	
2006			8,966	
2007			8,329	
2008			6,083	渡邉淳が代表取締役社長に就任（現代表）
2009			3,238	
2010			3,013	受託事業強化
2011			3,157	
2012	インド、中国（上海）		3,045	
2013	フィリピン		2,815 594 3,409	Mipox㈱へ商号変更、本社を東京都立川市へ移転
2014	台湾		3,202 558 3,760	
2015	京都府京都市		3,606 379 3,985	日本レフライト工業㈱を子会社化、Mipox Kyoto㈱を設立
2016	ベトナム、広島県福山市		3,930 274 4,204	日本研紙㈱を子会社化
2017			6,219 190 6,410	Mipox Kyoto㈱を吸収合併
2018			7,009 816 7,826	
2019			7,083 474 7,558	日本研紙㈱の営業機能を統合
2020	中国（深セン）		6,832 506 7,338	Ref Liteのリブランド
2021	広島県呉市		6,416 944 7,361	本店を山梨県北杜市へ移転、日本研紙㈱を吸収合併、オムニ・カーボナイト事業を吸収分割
2022	栃木県鹿沼市		7,570 2,879 10,449	ミスミ化学㈱を子会社化、本社を東京都四谷に移転
2023			7,948 2,080 10,029	本店本社を栃木県鹿沼市へ移転、スガ コーディングスの粉体塗装事業を譲受

01 セグメント別売上比率

mipox

製品事業

研磨材の製造・販売

売上高構成比 79%

ハイテク関連製品 37%

HDD関連、半導体、光ファイバー等で使用される研磨材の製造・販売

一般研磨関連製品 42%

自動車、鉄鋼関連等で使用される研磨材の製造・販売

国内外売上高比率(2023年3月期)

受託事業

顧客から材料の支給を受け
当社グループが保有する設備で受託加工

売上高構成比 21%

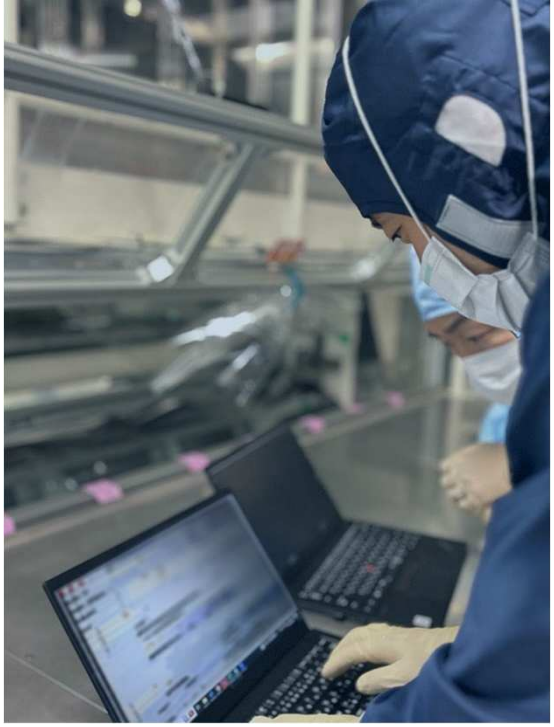
受託塗布・スリット 15%

顧客からフィルムや塗料材等を預かり、当社設備を使用して加工製造

受託研磨加工 5%

半導体用途を中心にウェーハ等の材料を預かり、当社の研磨材と設備を使用して研磨加工

Agenda



01 会社概要

02 2024年3月期第2四半期 実績

03 通期業績見通し

04 事業内容

05 競争力の源泉

06 成長戦略

07 Appendix

mipox

売上高

4,326百万円

前年同期比較

1,143百万円減少（▲20.9%）

営業利益

▲509百万円

前年同期比較

867百万円減少（-%）

経常利益

▲369百万円

前年同期比較

1,095百万円減少（-%）

親会社株主に帰属する当期純利益

▲396百万円

前年同期比較

985百万円減少（-%）

※増減算出後、百万未満切捨て

業績概要

世界的な経済の停滞感による、半導体市場の低迷やデータセンター向け投資の抑制が長期化しており、当初想定以上にハイテク関連製品市場の停滞が継続しております。当該マーケットの影響を受け、売上高は4,326百万円（対前年同期比1,143百万円減少）、営業損失は509百万円（867百万円減少）、経常損失は369百万円（1,095百万円減少）、当期純損失は396百万円（985百万円減少）となりました。

減益要因

ハイテク関連製品の主要用途である半導体、ハードディスク、光ファイバーそれぞれの売上高が減少いたしました。また、受託研磨サービスの受注が減少いたしました。これら製品やサービスの利益寄与が低迷したことにより、左記の各段階利益で損失を計上することとなりました。

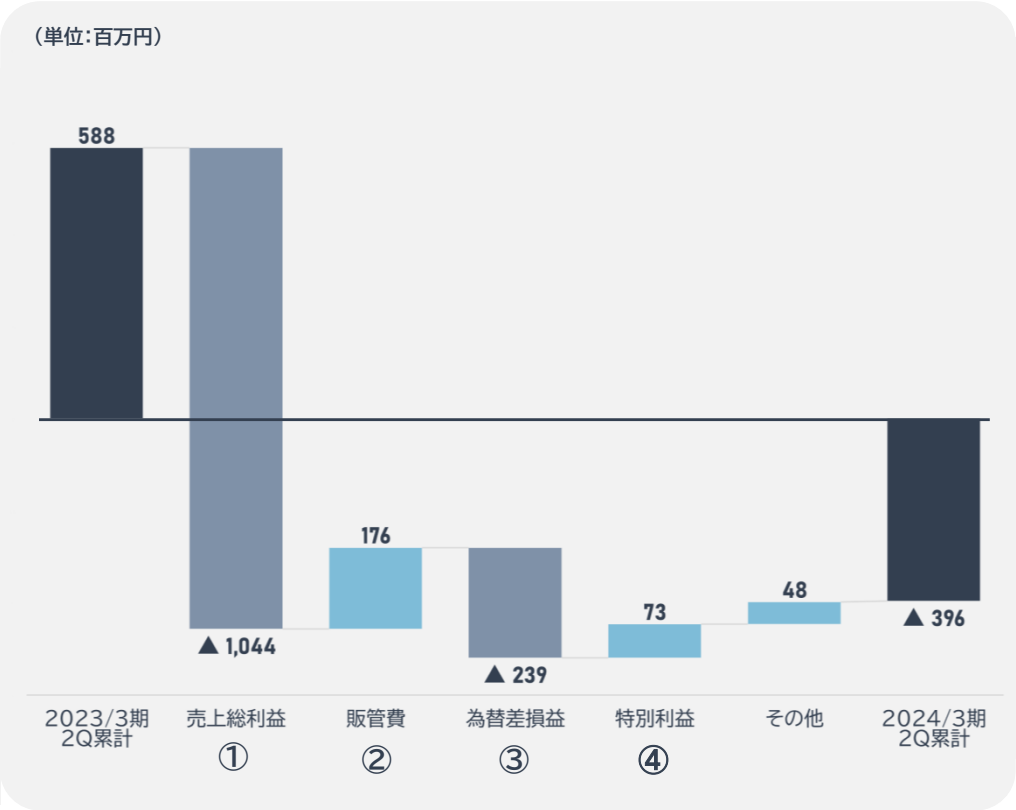
02 PLサマリー

mipox

（単位：百万円）	2023/3期 2Q	2024/3期 2Q	前年同期比
売上高	5,469	4,326	▲20.9%
売上総利益	2,054	1,010	▲50.8%
販売費及び一般管理費	1,696	1,519	▲10.4%
営業利益	357	▲509	-
為替差益	350	111	▲68.1%
経常利益	725	▲369	-
親会社株主に帰属する当期純利益	588	▲396	-

02 純利益増減要因

mipox



※増減算出後、百万未満切捨て

利益減少要因

① 相対的に高い利益率であるハイテク関連製品の売上高が減少しており、売上総利益も減少しております。また、原材料やエネルギー費用の高騰も継続しております。当該対策の一部として、北杜事業所において自家消費目的での太陽光発電を開始しております。

② 変動費である物流費用を中心に販管費が減少しております。鹿沼事業所の物流機能を活用し、他拠点で契約している外部倉庫の解約を進める等によるコスト削減も進めております。

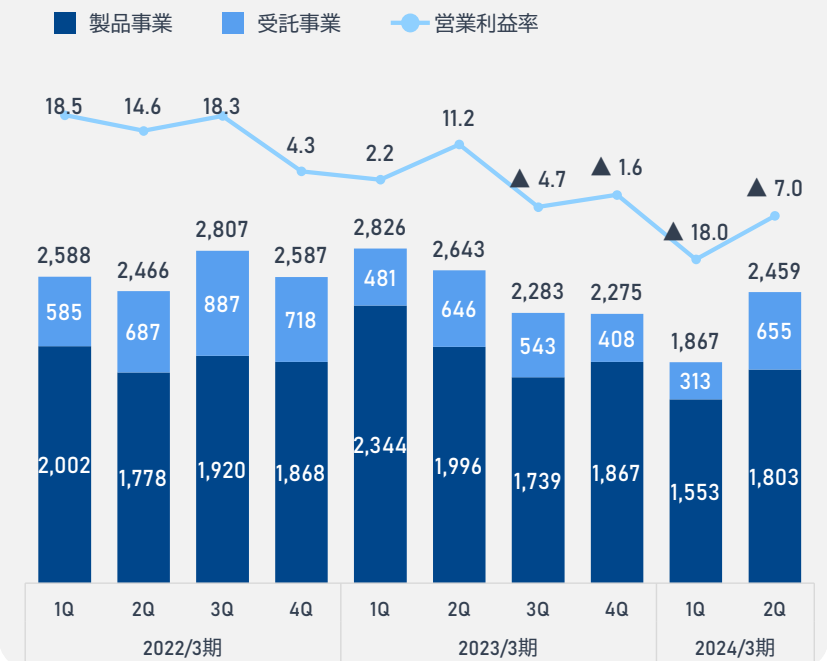
③ 円安傾向が継続しており、2024年3月期も為替差益のポジションにありますが、対前年同期比では減少いたしました。

④ 主に中国子会社の清算を計上しております。

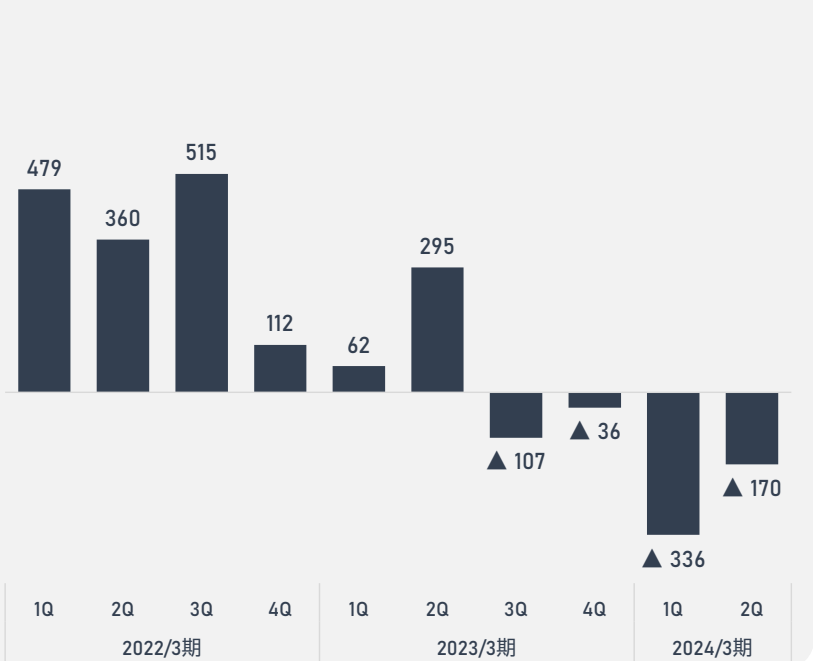
02 業績推移(連結)

- 製品事業および受託事業の両方が底であった第1四半期に比べ、第2四半期は回復傾向にあります。
- 一方、引き続き鹿沼事業所の固定費負担や利益率が高い製品・サービスの売上高の回復が鈍化しており、営業損失を計上いたしました。

売上高・営業利益率(単位:百万円・%)



営業利益(単位:百万円)



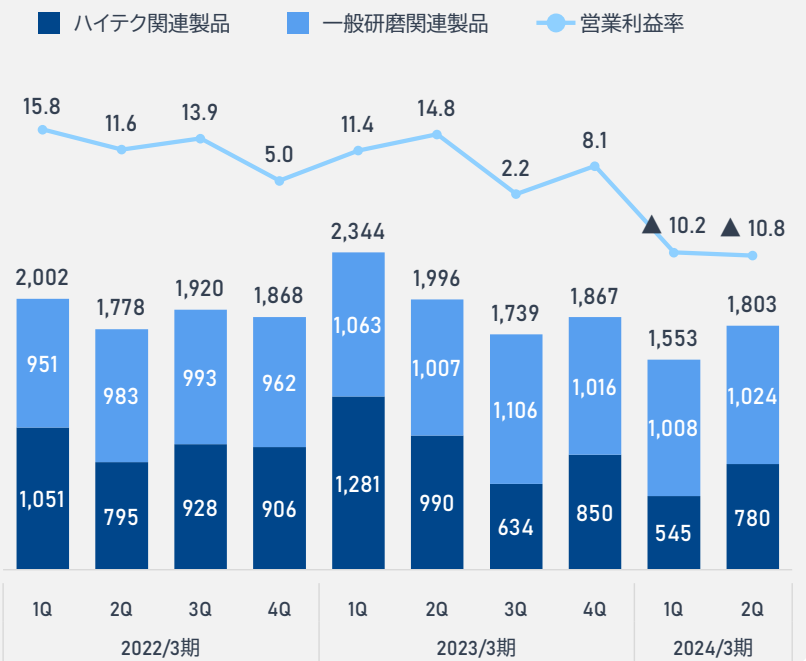
※業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

02 業績推移(製品事業)

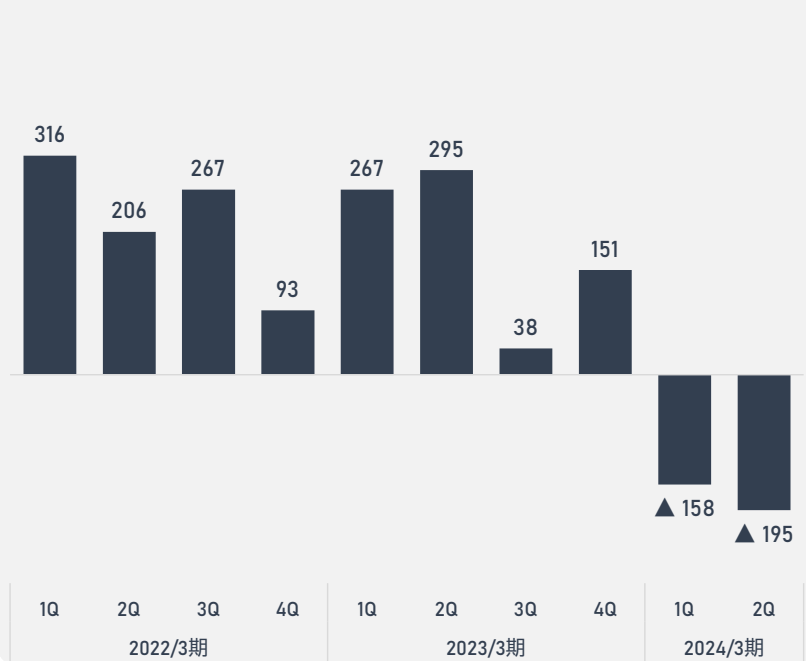
mipox

- ハイテク関連製品は外部環境によるボラティリティが大きいものの、一般研磨製品は安定的な推移をしております。

売上高・営業利益率(単位:百万円・%)



営業利益(単位:百万円)



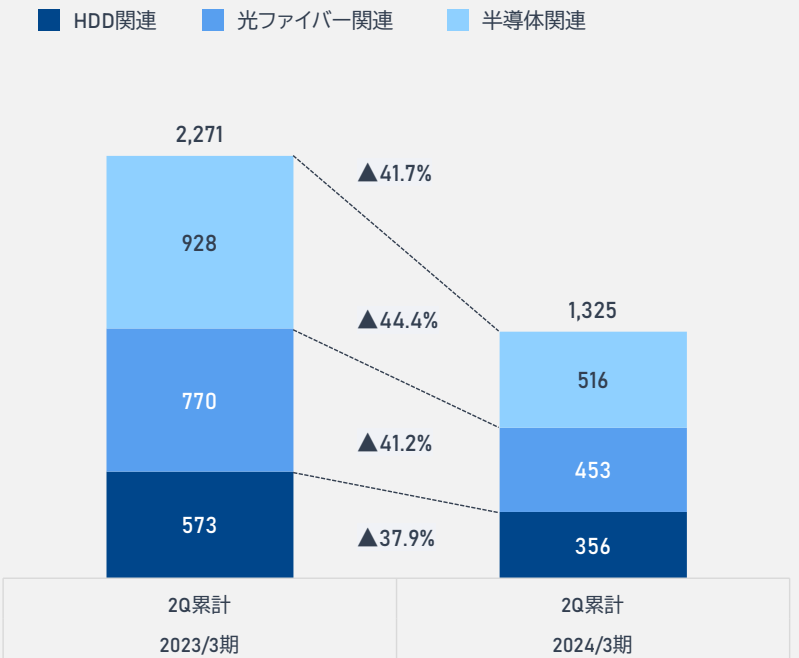
※業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

02 業績推移(製品事業内訳)

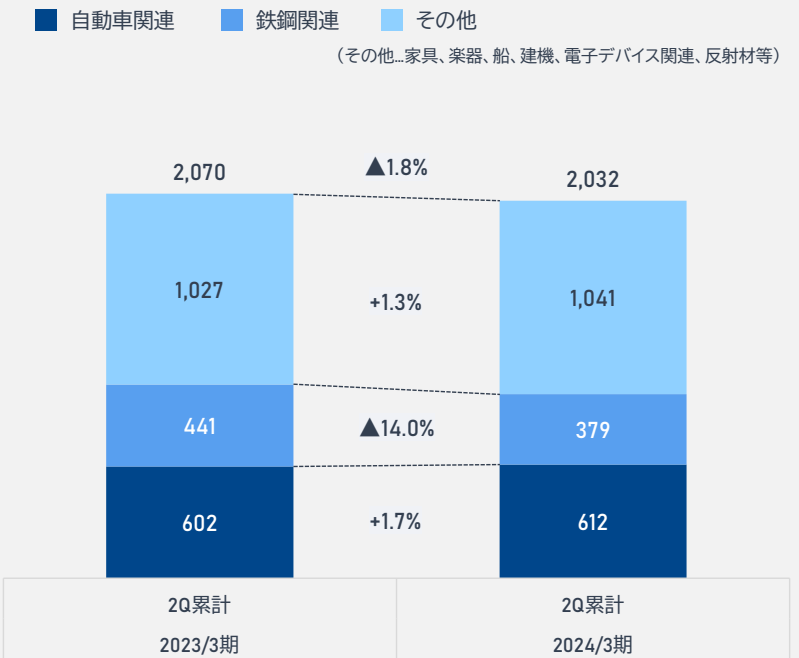
mipox

- ハイテク関連製品は、関連するデータセンター向け投資やPCやスマートフォン、タブレット等の需要回復が遅れていることによる半導体需要の減少により、売上高が大きく減少いたしました。
- 一般研磨関連製品は、売上高は安定的な推移を継続しております。

ハイテク関連製品(単位:百万円)



一般研磨関連製品(単位:百万円)

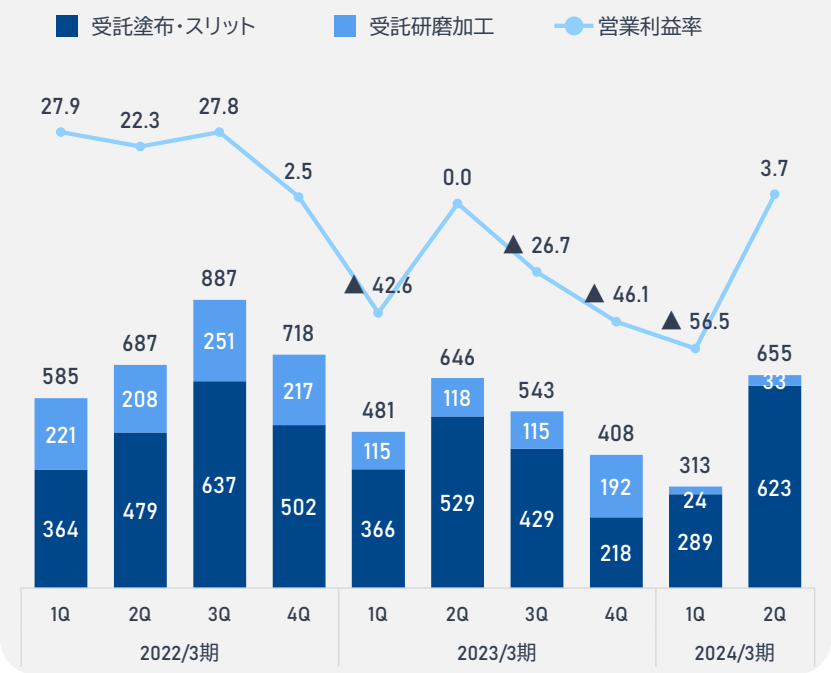


※業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

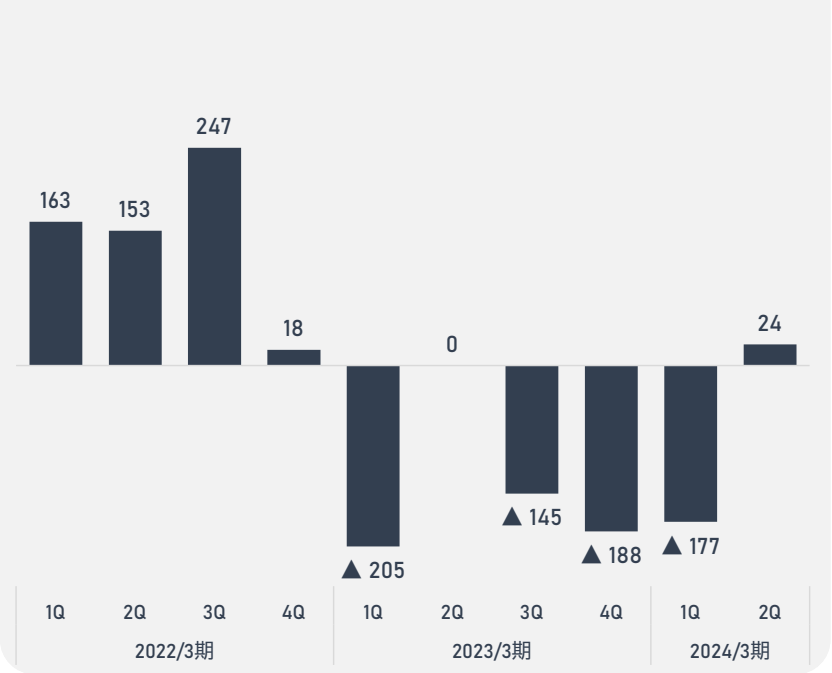
02 業績推移(受託事業)

- 新規顧客開拓等により、受託塗布・スリットの売上高は増加いたしました。
- 受託研磨加工は新たな先端材料等の受託獲得があるものの、対前年同期比で受託量が減少しており、大きく減収いたしました。

売上高・営業利益率(単位:百万円・%)



営業利益(単位:百万円)



※業績数値の百万円未満の端数の扱いにより、若干の差異が生じる可能性があります。

02 BSサマリー

mipox

（単位：百万円）	2023/3期末	2024/3期 9月末	増減額	備考
流動資産合計	9,032	8,522	▲510	
現金及び預金	2,613	2,389	▲223	
売上債権※	2,385	2,584	199	
棚卸資産	3,127	3,105	▲22	
その他	908	442	▲652	税金の還付等による未収入金の減少
固定資産合計	7,162	7,170	+8	
有形固定資産	6,663	6,658	▲5	
資産合計	16,195	15,693	▲502	
流動負債合計	5,065	4,589	▲476	
支払手形及び買掛金	793	778	▲15	
短期借入金（社債含む）	2,930	2,523	▲406	長期借入金への切り替え
未払金	664	490	▲173	設備関連未払金等の減少
その他	376	446	69	
固定負債合計	3,131	3,618	+487	
長期借入金（社債含む）	2,867	3,297	430	新たな長期借入による財務基盤の安定性化
負債合計	8,197	8,207	9	
純資産合計	7,997	7,485	▲512	
負債純資産合計	16,195	15,693	▲502	

※売上債権は受取手形、売掛金、電子記録債権を合計し、棚卸資産は商品および製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品を合計しております。

※増減算出後、百万未満切捨て

リリース日	該当四半期	タイトル	詳細
2023年10月31日	3Q	有限会社大久保鉄工所の全株式の取得(子会社化)に関するお知らせ	P17
2023年10月30日	3Q	Mipox京都工場閉鎖のお知らせ	別途資料
2023年10月24日	3Q	IH(高周波誘導加熱)粉体塗装システム ラボ新設	P17
2023年10月18日	3Q	出展情報「SWTest Asia 2023」	別途資料
2023年10月16日	3Q	出展情報「2023 Korea Electronics Show」	別途資料
2023年9月12日	2Q	出展情報 「Digital Printing Expo 2023」	別途資料
2023年9月5日	2Q	展示会「SEMICON Taiwan 2023」でMipoxのクリーニングシートご紹介	別途資料
2023年9月4日	2Q	出展情報「第21回中国国際光博会(CIOE 2023)」	別途資料
2023年8月10日	2Q	名古屋大学との共同研究成果が論文として掲載されました	別途資料
2023年7月11日	2Q	マツキヨ×パトリック、コラボスニーカーにリフレクターブランド「Ref Lite(レフライト)」が採用	別途資料
2023年4月27日	1Q	米国インターナショナル・テスト・ソリューションズ社の契約解除に関するお知らせ	別途資料

IH（高周波誘導加熱）粉体塗装システム ラボ新設

～省エネ・省スペース・脱炭素を実現する塗装工程ラインへ～

2023年10月24日リリース

2023年3月に譲り受けたスガコーディングス社のIH粉体塗装事業におけるIH粉体塗装システムを鹿沼事業所に導入いたしました。実証実験ラボを開設し、9月下旬より本格稼働を開始しております。

電化によるカーボンニュートラル

当社は従来のガス炉が抱える課題解決手法として、主に脱VOC（揮発性有機化合物）に対応する粉体塗装装置にIHを活用した電気加熱方式を採用しております。
選択的な温度制御と製品サイズに応じた高効率コイルにより、塗装工程における省エネ・省スペース・脱炭素の実現を可能としました。

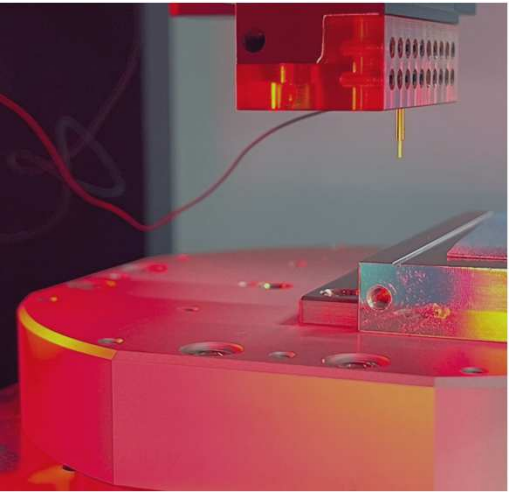
有限会社大久保鉄工所の全株式の取得（子会社化）

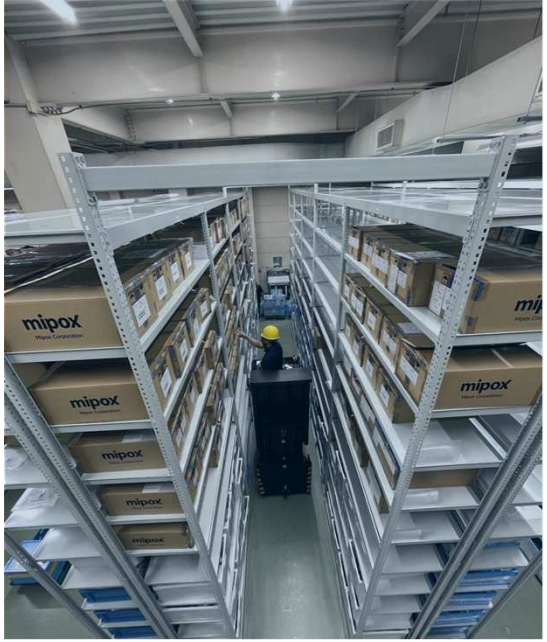
2023年10月31日リリース

平面ロータリー研磨や両頭研磨技術を駆使し、金属パーツの精密研磨加工を専門とし、自動車、医療、3Dプリンター向けの部品研磨が得意です。当社になかった新たな分野への受託研磨を導入することで、事業領域の拡大と多角的な受託研磨事業の展開が期待されております。

名称	有限会社大久保鉄工所
所在地	栃木県宇都宮市瑞穂3丁目6番地13
業務内容	部品精密研磨加工
資本金	300万円
設立年月日	1964年4月1日

Agenda





01 会社概要
02 2024年3月期第2四半期 実績
03 通期業績見通し
04 事業内容
05 競争力の源泉
06 成長戦略
07 Appendix

03 業績予想修正（2023年11月13日リリース）

mipox

（百万円）	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
当初予想(A)	10,500	500	600	500
修正予想(B)	9,000	▲700	▲500	▲600
2023年3月期実績	10,029	213	426	45
増減額(B-A)	▲1,500	▲1,200	▲1,100	▲1,100
増減率	▲14.3%	-	-	-

※増減算出後、百万未満切捨て

コメント

- 2023年3月期下期から続く、PC・タブレット製品等の電子デバイス市場やデータセンター向け投資の抑制が、期初時点の予想よりも長期化しております。当該市場の動向は当社のハイテク関連製品や受託事業への影響が大きく、前回発表予想を売上高および各段階利益で下回る見込みです。
- 売上高は前回発表予想を1,500百万円（約14.3%）下回る見通しです。また、利益についてはタイ子会社閉鎖に伴い、移管した製品在庫に係る評価損の計上等があったものの、物流コストや外部倉庫解約等の費用減少もあり、営業損失は700百万円を予想しております。
- 為替差益や受取賃借料の計上、京都工場閉鎖に伴う特別利益の計上等があるものの、繰延税金資産の回収可能性の見直し等もあり、経常損失は500百万円、親会社株主に帰属する当期純損失は600百万円を予想しております。

mipox

ハイテク関連製品

- 2024年3月期期初時点で想定されていたハードディスク関連および半導体関連市場の低迷が継続しております。これら用途向け売上高は2024年3月期第1四半期を底として回復傾向にありますが、通期では引き続き弱含みであることが予想されます。
- 一方、光ファイバー関連市場は下期から顧客の在庫調整が一巡し、一定の回復が既に見込まれております。また、当社が今期販売予定であった半導体関連装置の多くは下期に検収される見込みであり、一定の売上高への寄与が想定されます。
- また、現時点では低迷しているハードディスク関連や半導体関連用途に関し、洗浄剤等の新製品の開発や顧客の評価テストを進めており、市場回復時には既存のフィルム製品との販売面での相乗効果が期待されております。

一般研磨製品

- 全般的に底堅い需要がある製品用途であり、上期同様の水準で売上高は推移することを見込んでおります。一方、原材料やエネルギー費用の高騰は継続しており、利益率は低下傾向です。昨今の社会情勢を鑑みた各種製品の値上げを順次進めております。
- 景気後退が進む海外市場でありますが、活発な建設需要が引き続き期待されるインドに新工場を設立予定です。今後も海外の対象市場を選別し、新たな一般研磨製品ニーズの開拓を継続いたします。
- 2023年3月に取得した溶剤フリーのIH粉体塗装事業の営業展開と一般研磨関連製品への技術転用の研究を継続いたします。

mipox

受託塗布・スリット

- 新規顧客開拓は一定の成果が出ており、試作件数が増加しております。これら試作は来期以降の量産による売上高への貢献が期待され、鹿沼事業所、北杜事業所の両生産体制を最大限活用いたします。
- IH粉体塗装技術を活用した新たな受託加工ニーズの獲得を進めております。表面処理を中心とした既存のフィルムコーティングに留まらず、当該技術を活用し、立体物への受託コーティングを新たに展開いたします。これにより、電気自動車向けの絶縁塗装等の新たな市場への参入を企画しております。

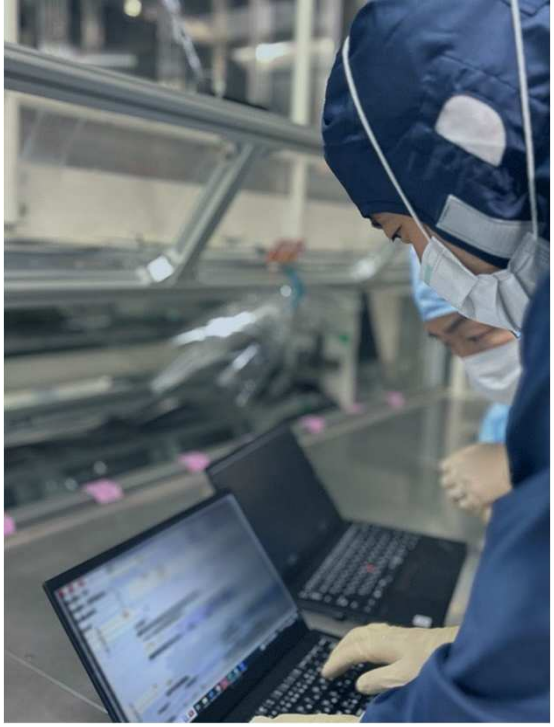
受託研磨加工

- 2024年3月期は受託量が減少し、来期の受注に向けた活動に注力しております。オウンドメディアである「研磨ラボ」や国際学会であるICPTでの露出を通じ、海外顧客からの認知度向上と新規の受託先開拓に努めております。
- 欧米メーカーの最新xR領域デバイスに用いられる先端材料の加工等の実績を積み上げており、GaN縦型デバイスの実現に向けた接合案件等も増加しております。また、海外ウェーハメーカーからの加工依頼が多い、SiCやGaN、ダイヤモンドを代表とした次世代半導体ウェーハの研磨材（スラリー・研磨フィルム）や専用研磨装置の開発を進めております。
- 新たにグループ会社となった大久保鉄工所による金属精密研磨加工領域の規模拡大も進めてまいります。

	年間配当
2023年3月期	10円
2024年3月期	未定

事業環境が絶え間なく変化している状況により、当期配当金の予想については未定としております。
当期配当金につきましては、配当方針に従い、決定次第速やかに開示いたします。

Agenda



01 会社概要

02 2024年3月期第2四半期 実績

03 通期業績見通し

04 事業内容

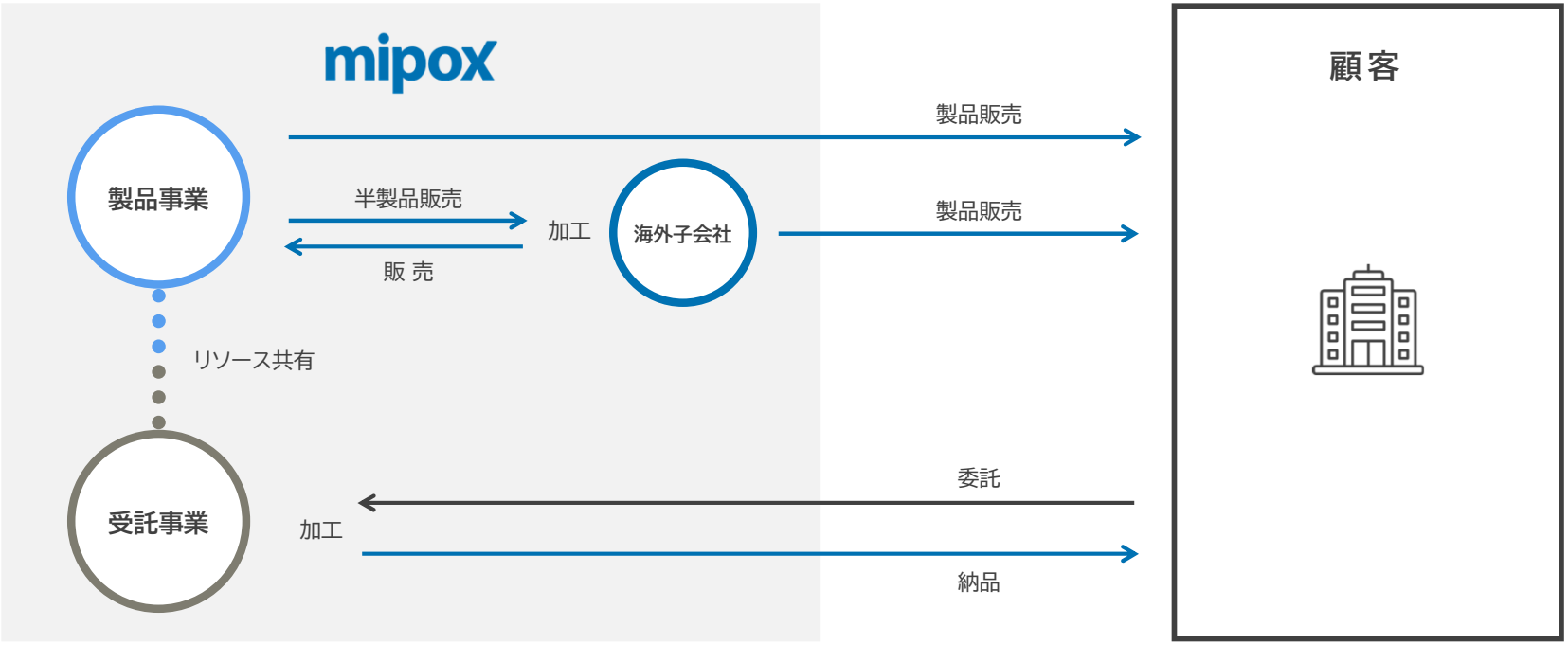
05 競争力の源泉

06 成長戦略

07 Appendix

04 事業系統図

- 海外工場での加工を経ることにより、日本のみに工場が存在するよりも様々な製品を効率よく製造しております。
  海外向けに販売も行っております。
- 顧客からの委託を受けて加工も行っており、自社製品のみならず顧客の要望に合わせたサービス・製品も提供しております。



mipox

製品事業

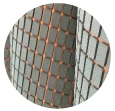
研磨材の開発・製造・販売を行っております。
超精密研磨から一般研磨、装置や反射材など、世界中の幅広い用途に向けて当社製品を提供しております。

研磨フィルム

液体研磨剤

研磨関連製品

研磨布紙製品


研磨砥石製品

研磨周辺機器

検査装置

再帰性反射材
（Ref Lite）

ヤスリ製品

IH粉体塗装

受託事業

【受託研磨加工】
半導体ウェーハをはじめとする材料を顧客より預かり、弊社が保有する設備（研磨装置、洗浄機、検査装置）と独自の研磨材を用いて、要望に沿った研磨加工を提供しております。

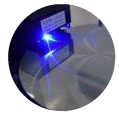
【受託コーティング・スリット】
顧客の基材（フィルム等）や塗料材を預かり、弊社が保有する設備（調合、コーティング、スリット）を用いてフィルム化、裁断を行っております。

塗布製品

研磨加工

スリット加工

常温接合加工


検査

04 サプライチェーン(半導体ウェーハ製造工程の例)

mipox

- 様々な工程を経る半導体製造工程において、当社はシリコンウェーハ加工におけるほぼすべての工程が作業可能です。
- 現在は次世代パワー半導体の量産に向けた国家プロジェクトにも参画しております。(P35、36参照)

シリコンウェーハ完成 | 半導体ウェーハ完成 | 半導体チップ完成

半導体ウェーハ製造 工程

- 半導体ウェーハ加工

半導体製造 工程

- 半導体 前工程
- 素子形成・配線形成・ウェーハ特性検査
- 半導体 後工程
- 組立・検査
- 実装

半導体ウェーハ加工 工程

複雑な工程を当社が一括管理。ワンストップソリューション

インゴット外周研削加工 ▶ スライス加工 ▶ ベベル加工(外周面取り) ▶ ラップ加工(粗研磨) ▶ ポリッシング(鏡面表面) ▶ 洗浄 ▶ 検査 ▶ 次世代パワー半導体向け接合研磨加工サービス(接合加工 ▶ エッジ研磨 ▶ 平面研磨) ▶ 梱包

mipox Base Technology

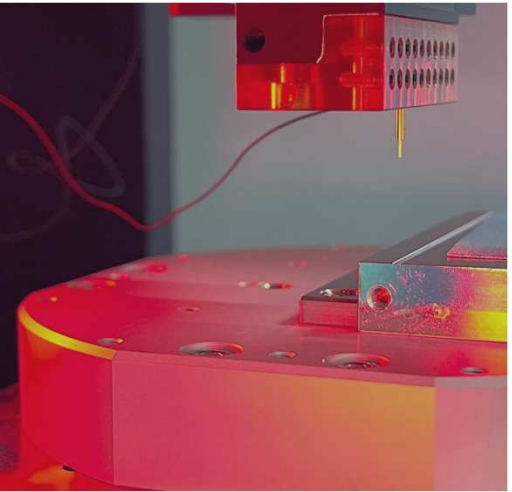
- 磨く Polishing
- 磨く Polishing
- 磨く Polishing
- 観る Observation
- 磨く Polishing

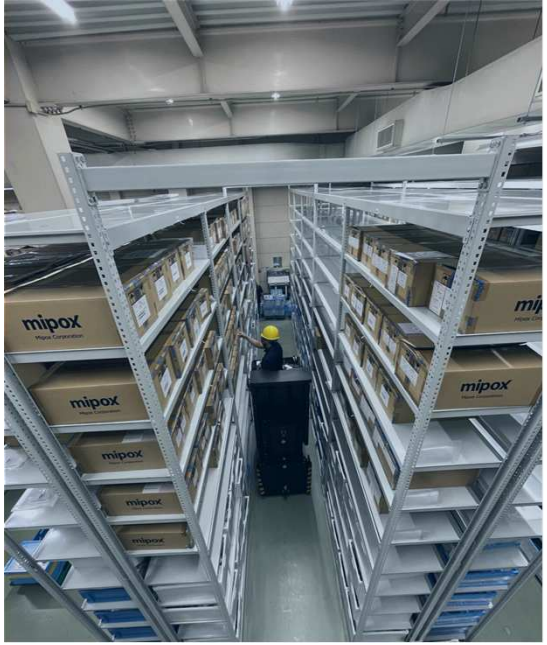
マレーシア拠点で検証中

CMP(表面を磨く)
エッジ研磨

観察機:XS-1, Micro-MAX

Agenda





01 会社概要
02 2024年3月期第2四半期 実績
03 通期業績見通し
04 事業内容
05 競争力の源泉
06 成長戦略
07 Appendix

mipox

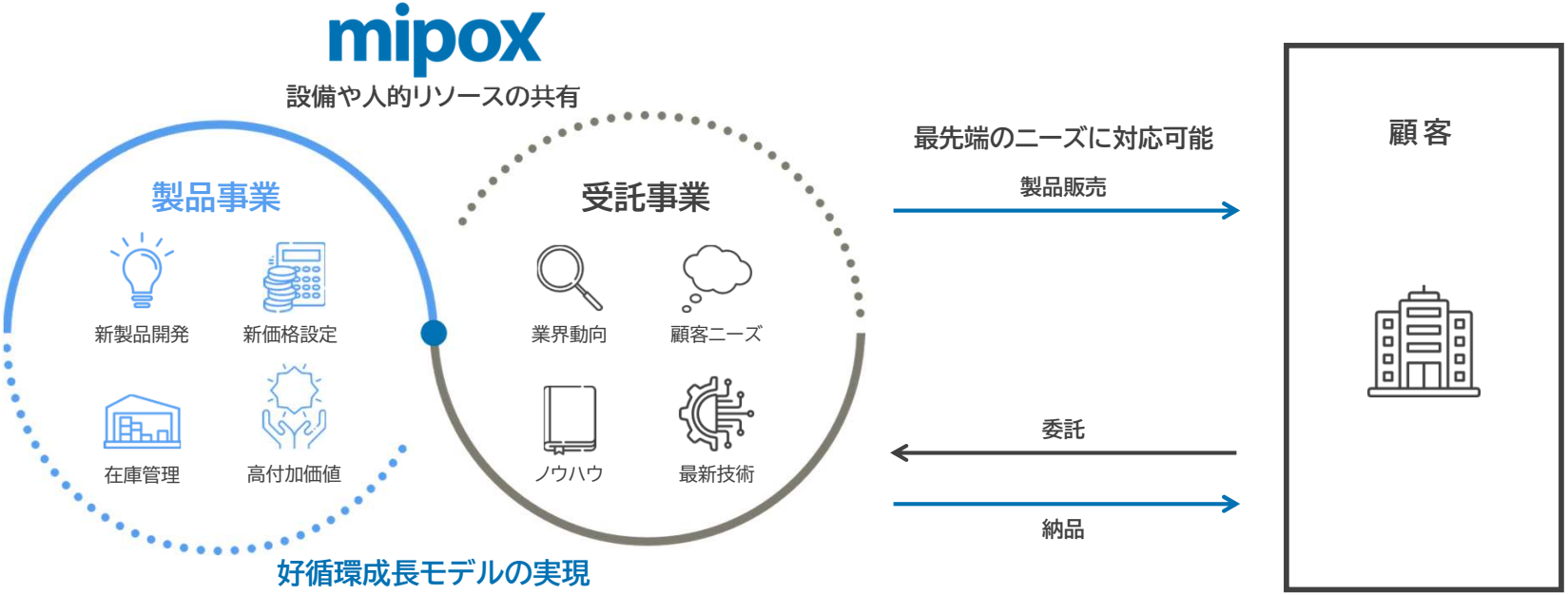
1 事業間で発揮されるシナジー効果

2 顧客の要望に合わせた高品質な製品の提供

3 スマートファクトリー

- 製品事業と受託サービス事業では設備や人的リソースを共有しており、技術やノウハウの蓄積に役立っております。
- 蓄積された技術やノウハウは高付加価値のある製品やサービスの創出に活かされ、顧客の多様な要望を実現する源になっております。

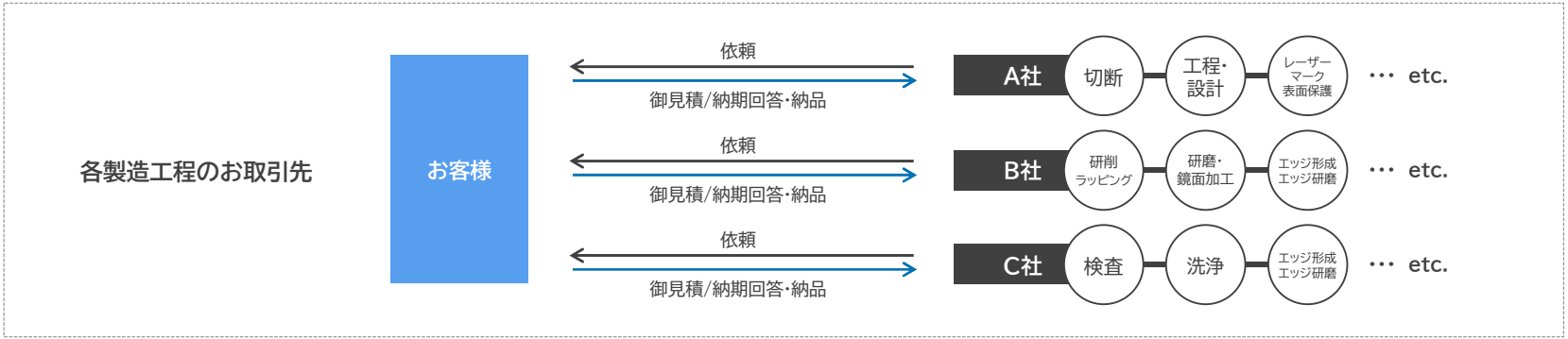
製品事業と受託事業の共有型リソース

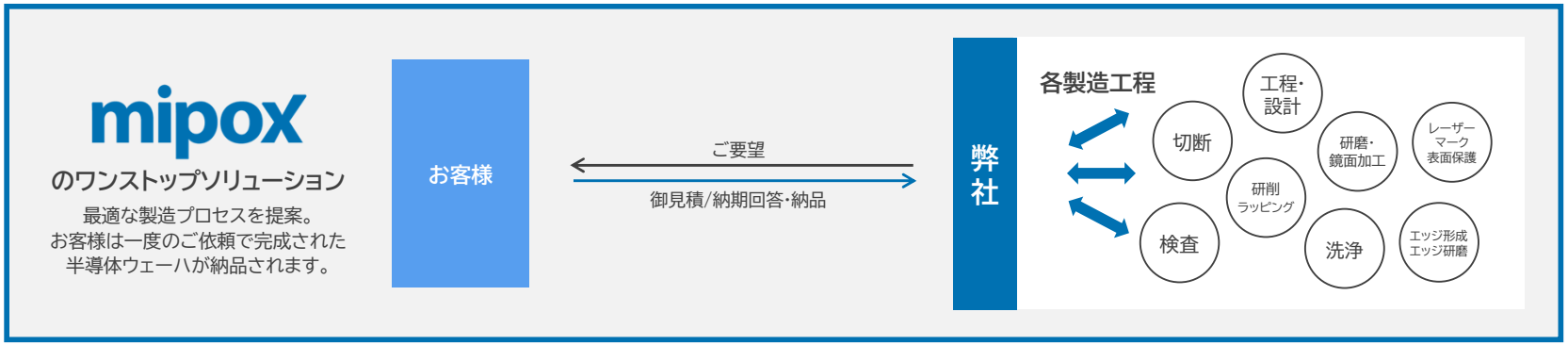


05 競争力の源泉② 顧客の要望に合わせた高品質な製品の提供

mipox

- 製品製造と受託加工ができるため、顧客の理想に合わせた製品の作成、きめ細やかなサービスの提供が可能です。
- 各製造工程において異なる取引先との煩雑なやりとりを当社がワンストップで提供しており、顧客の要望が1つの窓口で完結いたします。





05 競争力の源泉③ スマートファクトリー

- IoTとAIを活用し連携させることで、可視化しづらい部分の改善に役立つデータを収集しております。
- 工場のDX化により、さらなる効率化・高品質化を目指します。

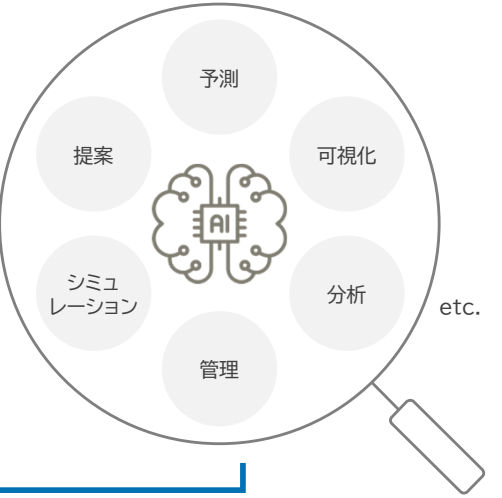
IoT

あらゆる機器を連携させ、様々なデータを収集・蓄積

×

AI

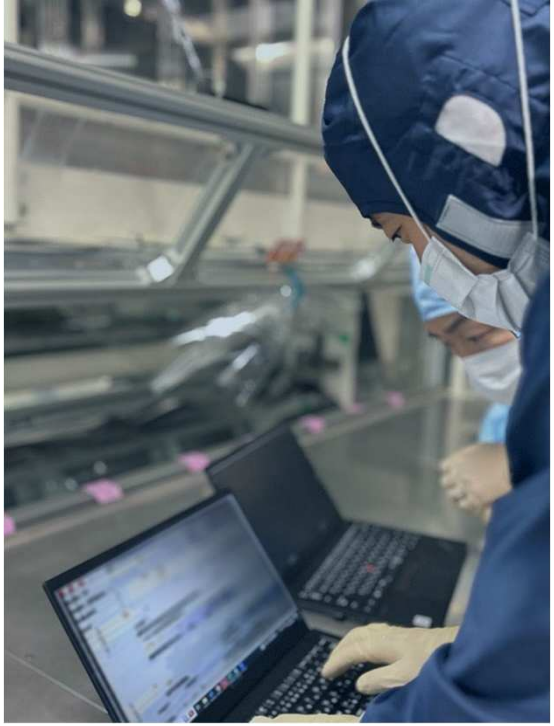
IoTで集めたデータを分析して課題を見える化



業務プロセスの改革

品質・生産性の向上

Agenda



01 会社概要

02 2024年3月期第2四半期 実績

03 通期業績見通し

04 事業内容

05 競争力の源泉

06 成長戦略

07 Appendix

1 製品・受託事業領域の拡張

2 鹿沼事業所の量産体制構築

3 産官学プロジェクトへの参画

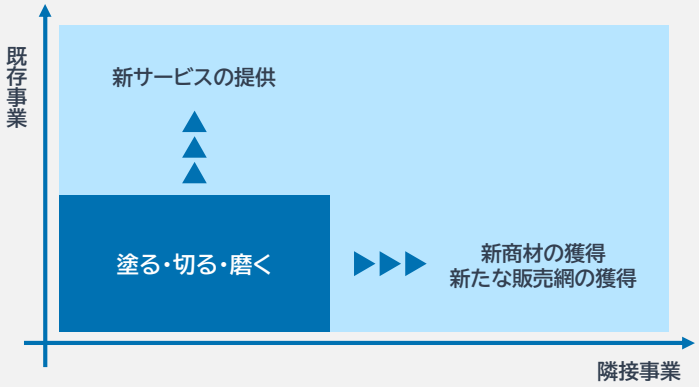
06 成長戦略① 製品・受託事業領域の拡張

mipox

- 当社の基幹技術「塗る」「切る」「磨く」の事業領域を拡大するための打ち手として、M&Aを実施してまいりました。
- 今後も製品・受託事業領域の拡張を行って参ります。

M&Aに対する基本的な考え方

基幹事業とシナジー効果のある企業や事業に対しM&Aを実施



これまでのM&A実績

Ref Lite Color Your Style. 反射材製品、精密研磨フィルム等の製造・販売（2015年）	Nikken 日研 研磨布紙及びその他研磨材製商品の製造・販売（2016年）	ORIENT フレキシブル・超高品質なヤスリの開発・製造（2021年）
MISUMI 研磨ディスクの製造・販売（2022年）	スガ コーティングス 有機溶剤不使用のコーティング事業（2023年）	大久保鉄工所 金属パーツの精密研磨加工（2023年）

多様化するニーズに、迅速且つ的確に対応できる体制の構築

06 成長戦略② 鹿沼事業所の量産体制構築

- 2023年4月より本社を東京オフィスから鹿沼事業所に移転し、本格稼働を開始いたしました。
- 今後、計画的に人員・設備・機械の増強を行いながら、更なる生産能力の拡大に努めてまいります。

鹿沼事業所

敷地面積：約60,000㎡
延床面積：約46,000㎡

取得日

2022年4月1日

取得目的

受託事業の生産能力拡大
事業成長のための場所確保
BCPの観点から生産体制のリスク分散

受託研磨加工 | スリット工程 | 塗布工程
環境配慮設備 | ダイカット工程 | 物流

鹿沼事業所の稼働状況

- 受託塗布・スリットの稼働を開始
- タイ子会社、京都工場からの生産移転
- スガコーディングスのIH塗装事業の稼働開始
- 東の物流拠点としての機能を集約
- 使用面積増加も可能（未使用エリアは他社へ貸与中）

研磨ラボの活用

顧客と一体で研磨プロセス、製品開発を進められる体制を構築し、初期ニーズの把握を行い、付加価値が高く迅速な製品提供を展開予定

06 成長戦略③ 次世代半導体プロジェクト（当社参画のプロジェクト一覧）

mipox

- 3つのNEDOプロジェクトに参画しております（うち1プロジェクトはすでに終了）。
- 加工技術と評価技術の確立においてさまざまな組織と協力し、国主導のプロジェクトを進めております。

PROJECT 01 NEDOグリーンイノベーション基金事業 -次世代デジタルインフラの構築-

オキサイドを幹事会社として(株)UJ-Crystal、国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学、アイクリスタル株式会社、国立研究開発法人産業技術総合研究所が参画

- 大口径ウェーハ用ラインの開発に向け、8インチSiCウェーハの詳細な加工工程フロー（第一次案）を作成し、加工ラインに必要な各装置の仕様を決定。
- 装置選定、発注を順次実施中。下期には設置完了を予定。

加工技術

大口径SiCウェーハ加工ラインの開発
8インチ対応SiCウェーハ加工、パイロットラインの構築

ウェーハ加工工数の削減
加工シミュレーションの検討と削減工程候補の抽出

評価技術

溶液法におけるSiC結晶の評価技術確立
溶液法SiCに適した光学系の最適化とそれに基づく装置設計

大口径ウェーハ観察装置の開発
8インチウェーハに対応した装置使用の検討と設計

PROJECT 02 NEDO官民による若手研究者発掘支援事業

名古屋大学（原田俊太准教授）

- 当社の装置XS-1 Siriusを使用して、デバイス特性に影響を及ぼすことが懸念される転位欠陥を判別できる技術を開発。これまでの研究結果は、国際会議や学術論文において発表済みであり、デバイスメーカからも高い関心を集めている。
- 下期以降は、デバイスメーカとの連携を深め、デバイス不良との相関についてさらに研究を推進。

評価技術

半導体製造の生産性を向上させるキラー欠陥自動検査システムの開発 2023年8月論文発表

PROJECT 03 NEDOマテリアル革新技術先導研究プログラム

電力中央研究所・名古屋大学（宇治原徹教授）・理化学研究所

2022年度末に終了

- 昨年度末に終了し、製品化に向けた開発を継続。

評価技術

大型SiC結晶に対する欠陥・内部歪の観察解析技術
SiCインゴット検査装置の開発

06 成長戦略③ 産官学プロジェクトへの参画(概要)

mipox

- カーボンニュートラルの実現に向けてエネルギー構造や産業構造の転換、大胆な投資によるイノベーションの創出が必要とされいます。
- これまでの社会の延長にない飛躍的な目標を達成するため創出された、グリーンイノベーション基金のプロジェクトに当社が参画しております。

NEDO※1グリーンイノベーション基金

- 日本政府が主導する「2050年カーボンニュートラル」宣言を達成するための基金
- 事業予算2兆円
- カーボンニュートラルに向けた研究開発、実証から社会実装に取り組む企業に最長10年間支援

NEDO対象
19
プロジェクト

▶

次世代デジタルインフラの構築

【研究開発項目2】
次世代パワー半導体に用いるウェーハ技術開発

当社を含めた6社が共同受託
2022年度から2030年度まで9年間のプロジェクト

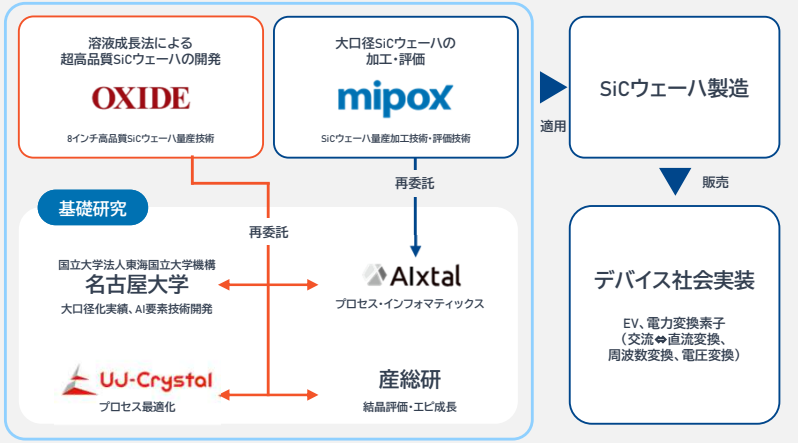
mipox / OXIDE / UJ-Crystal
国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学 / Alxtal / 産総研

※1:国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

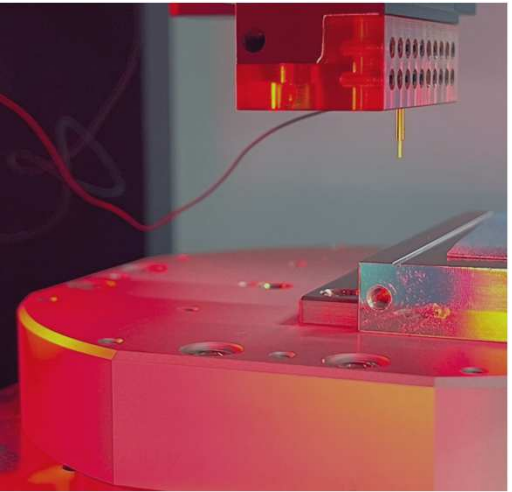
プロジェクトの目的

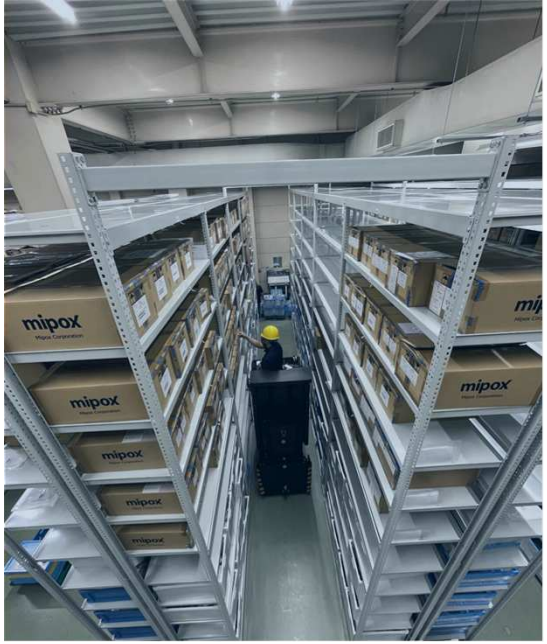
超高品質・8インチ・低コストSiCウェーハ開発・販売

系統図



Agenda





01 会社概要
02 2024年3月期第2四半期 実績
03 通期業績見通し
04 事業内容
05 競争力の源泉
06 成長戦略
07 Appendix

変わることを忘れない『100年ベンチャー』

当社は1925年にドイツ・レイボルト商館の子会社として創業し、輸入した顔料を販売する傍ら主に出版物に使われる色箔の製造を生業としておりました。1960年代後半よりこの色箔を製造する中で培った「塗る」技術、それを裁断する「切る」技術を基に、精密部品の製造工程事業に使用される研磨フィルムを開発し、「塗る・切る・磨く」の3つのコア技術を確立いたしました。

精密研磨材専業メーカーとして発展を経て、2000年初頭からはコア技術である『塗る』をサービスとして提供するエンジニアリングサービス(受託塗布)を開始いたしました。創業来の危機である2008～2010年を乗り越えたあとは、『磨く』をサービスとして提供するウエハープロセス(受託研磨)を立ち上げ、「塗る・切る・磨くで世界を変える」に取り組んでまいりました。2016年には研磨布紙メーカーである日本研紙を仲間に迎え、製品事業のラインナップの拡充を進めました。

創業から間もなく100年。事業を長く続けていくために、急速に変化するテクノロジや世の中の価値観を敏感にとらえながら、自らも変化に順応していくことが求められます。こうした時代のニーズに対応するため、わたしたちが培ってきたコア技術をさらに高めながら、新しい事業にも積極的にチャレンジし、世の中に必要とされる製品やサービスを通じて世界のお客様に選ばれるパートナーを目指してまいります。
変わることを忘れない、『100年ベンチャー』を目指してこれからも変化し続ける集団でありつづけます。

今後とも皆様のご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

07 マネジメントメンバー

mipox

01

代表取締役社長　**渡邉 淳** WATANABE Jun

日本とアメリカの大学で学んだ後、1994年当社へ入社。製造現場でキャリアをスタートし、生産技術、国内営業、海外営業を担当後マレーシア駐在員、米国子会社赴任を経験。その後半導体部門長、海外支援部門長に従事。2007年取締役、2008年に先代から引き継ぐ形で現職に就任。就任後は不採算事業撤退や拠点の統廃合を通して赤字からの脱却を行った。業績回復後は製造業として「技術・品質」に加え、デジタルを企業変革の柱と据えてIT推進をリード。

02

取締役　**中川 健二** NAKAGAWA Kenji

全自動水洗い洗濯機や半導体CMP後洗浄装置の開発、ハードディスクメディアむけ研磨テープや光学検査装置の技術営業を経験。独立後は光学検査装置のマーケティングから技術、営業や貿易などに携わる。2002年に独立後、2016年当社技術本部長、2019年経営企画部長兼経営管理部長に就任。経営全般に関わりながら、社内組織体制の構築やレフライトのリブランディング活動に注力。2021年から新事業開発に携わり、GI基金の大口径SiCウェハの加工開発を統括している

03

取締役　**上谷 宗久** UETANI Munehisa

2000年に当社入社。台湾支店長や海外子会社の代表取締役を経て、2012年取締役営業本部長に就任。製造拠点の運営、競合他社とのM&A、そして民事再生を経た企業の事業承継等を担当。2017年に退職し、ITベンチャーにおける取締役COOとしての経験をはじめ、エンジニアリング企業での事業開発責任者としての役職を経た後に、2022年4月に当社に復帰。外部活動としてthomas株式会社の社外取締役も務める。

04

取締役　**仁平 洋亮** NIHIRA Yosuke

オリックスにて国内外の事業投資や海外子会社管理等の従事。デロイトでは10年間、国内外のM&A案件のアドバイザリーサービスを提供。その他、投資後のPMIや事業管理関連サービスの提供や事業再生、地方創生、AIサービス開発等に関与。デロイト在籍中に双日へ出向しクライアントの立場から国内外のM&A案件の実行をサポート。当社入社後は取締役コーポレート本部、DX本部管掌として経営管理全般を担当。

05

社外取締役（独立役員）**長井正和** NAGAI Masakazu

長瀬産業にて1973年から半導体を中心とする精密電子回路製造用機材の海外営業に25年間従事。1988年から6年間シリコンバレーに駐在し、三次元半導体パッケージ設計技術の日米企業間コラボを推進。2003年に独立し、トランスエッジ有限会社の代表として現在に至るまで主に半導体・回路板の技術・マーケティングのコンサルティングに従事。

07 スキルマトリックス

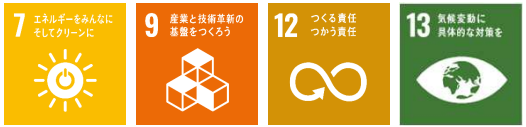
mipox

		経営全般	グローバル経営	ESG	DX戦略	財務・会計	研究・技術開発	M&A	マーケティング・営業	製造・生産技術
01 代表取締役社長	渡邉　淳	●	●	●	●			●		●
02 取締役	中川健二						●		●	●
03 取締役	上谷宗久		●		●			●	●	
04 取締役	仁平洋亮					●		●		
05 社外取締役（独立役員）	長井正和	●	●				●		●	

mipox

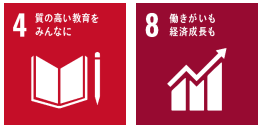
Environment

- 太陽光パネル導入の推進
- IH粉体塗装システム
- RTOの導入
- LNGボイラの導入
- リサイクル素材を使用した製品の開発
- グリーンイノベーションへの取り組み



Social

- Eラーニングによる社内教育の充実
- ボランティア制度
- 兼業・副業の許可
- スーパーフレックスタイムの導入



Governance

- 透明性のある情報開示
- 内部通報窓口を外部企業に委託
- 全社員に対するコンプライアンス研修の実施
- グループ各社に対するガバナンスとモニタリング体制の強化

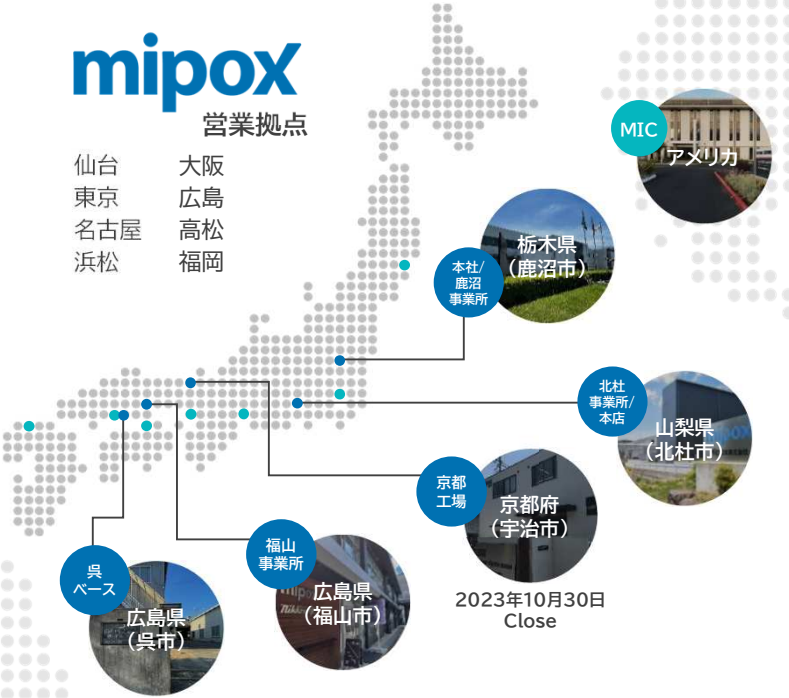
07 Mipox グループ主要拠点

● 工場/オフィス　● 営業拠点

mipox

営業拠点

仙台	大阪
東京	広島
名古屋	高松
浜松	福岡



IRお問い合わせ

https://www.mipox.co.jp/inquiry.html

フェアディスクロージャーの観点から、公平な情報開示体制と株主様と投資家の皆様への
お問合せ対応の維持を考慮し、IRお問い合わせ窓口のお電話での対応をおこなっておりません。
HPのお問い合わせフォームをご利用ください。

mipox

Ref Lite
Color Your Style.